

素敵な助産師さん、見~つけた!



前回の有木夕実さんからバトンを頂きました芳賀枝里子です。私は、高校まで香川で過ごし、看護学校・助産師学校時代を徳島で過ごした後、大阪の総合病院に就職。結婚を機に、兵庫・愛知・栃木を転々…。1人目妊娠時に一旦、休職していましたが、2人目を産出し、落ち着いたところで、仕事復帰したいという気持ちが強くなってきました。仕事復帰するなら、地元で!と思っていましたが、幸いなことに、香川出身だった主人も香川にUターンすることに賛成してくれ、6年前に香川に帰ってきました。

香川に帰ってきてからは、恵生産婦人科や高松赤十字病院で働いたのち、現在は、よつばウィメンズクリニックにて働いています。その中で、妊娠から出産、また産後も家族みんなが笑顔で楽しく過ごせるよう、ママたちの手助けをしたいと思うようになり、周囲の人たちの協力もあって、2022年7月に出張専門の「もものはな助産院」を開業しました。助産院では、現在、母乳外来や骨盤ケア等を行っていますが、今後はベビーマッサージやベビ योगなども行っていきたいと思っています。また、今年度からは「こんにちは赤ちゃん訪問事業」にも携わる機会をいただいております、地域の助産師としても活躍できる場を広げています。

まだまだ、勉強中の身ではありますが、これからも先輩たちに教わりながら、2児の母として、勤務助産師として、また、地域の助産師としてママたちのMY助産師になれるよう頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



令和6年1月~3月の研修会及び行事

学会名 ・ テーマ	開催日時	定員	参加費
演題名 ・ 講師名	場所		会員/非会員
研修会 「新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップコース」 インストラクター 高松赤十字病院・助産師 熊野 明江 香川県助産師会・助産師 高田 恵子	2024年1月27日(土) 9:30~12:30 香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター (スキルラボラトリー)	—	3000円/6000円 非会員の申込みは9月4日(月)から 申込み期限12月1日(金)厳守 ほか 下記要参照

《参加の申し込み》 すこやか助産師センター事務所へ、電話またはFAXでゆとりを持って申し込みをしてください。
 Tel : 087-844-4131 Fax : 087-844-4130 電話受付 : 月から金曜日 10:00~16:00 (祝祭日を除く) 計画変更はホームページに掲載
 *新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップコースについて
 ・会員を優先とします。非会員の申込みは、**2023年9月4日(月)から**とします。
 ・会員・非会員ともに申込期限は、**2023年12月1日(金)16:00まで**とします。ただし期限内であっても募集定員(12名)に達した場合は、その時点で募集を終了します。申し込み時には、**認定番号、有効期限、所属施設名、携帯番号**を必ずお伝えください。

その他研究会

開催日時	学会およびテーマ	会場
2024年 2月4日(日) 12:30~	第16回香川県小児保健協会研究会 テーマ 「子育ての原点」	香川大学医学部看護学科棟 香川県木田郡三木町池戸 1750 - 1

とらうべ通信

2023. 12月号
No.104

発行所 : (社)香川県助産師会 高松市春日町 1176
 発行責任者 : 佐々木 三千代 ☎ : 087-844-4131 FAX : 087-844-4130

副会長挨拶

副会長 宮本 政子

年の瀬も押し迫り令和も5年目が終わろうとしています。今年度から最初のご挨拶を会長だけでなく理事も担当する事となり、「どうしてまた宮本が!」と思われた方も多いと思いますがご容赦下さい。



会長職を離れると日本助産師会の動向などにも疎くなった(副会長がそれではダメですが)ので、今回は個人的なことを書いてみます。私の助産師としての活動は殆どが専門学校、大学、大学院での助産師教育で、70歳代に突入しても高速道路で県外まで遠距離通勤をしておりました。しかし、学生との年齢差が半世紀を超えると色々課題も増えてきました。歳に見合った生活をしなければと令和4年で大学を辞め、令和5年には会長職も満期終了しました。これから楽しい老後生活が待っていると期待していましたが、現実はその甘くはありません。年を重ねると若い時には想像できないことが次々と起こるのです。細かく書くと愚痴になるので詳細は想像して下さい。さて、暇な時間(有効に使うべき時間)を持って余っていたので、先日奈良国立博物館で開催されている正倉院展に行きました。今回は60点の宝物の展示がありました。なかでも螺鈿紫檀琵琶(らでんしたんのびわ)は目を見張る豪華な琵琶で、古代ペルシャに起源をもち、貝や宝石がびっしりはめ込まれておりました。千年の時を越えて琵琶法師が今にも弾き語りを始めそうな雰囲気を感じました。正倉院展は毎年秋の宝物点検にあわせて行われ、今年が第75回目で、今回初めての参加でした。驚いたのは見学者の半数近くが外国人でしかも若い人でした。修学旅行の学生も多かったのですが、日本の歴史に興味を持って学ぼうとして下さる方の多いことは予想外に嬉しい事でした。

教員時代に「歴史を学ぶことは今後の自分たちの在り方を考える手掛かりになる」と伝えてきました。助産師としての活動(個人や組織)の歴史を大切に保存し伝えていくことで、助産師及び母子やご家族の将来が変わると思う今日この頃です。

会員の皆様には今後とも助産師会の活動にご協力を賜りますよう宜しくお願いします。



災害対策委員より

<災害対策委員主催研修について>

2月10日14時 防災士さんを招いての研修会を企画しています。(予約は不要)是非ご参加ください!

<災害ボランティア登録について>

日本助産師会でボランティア登録ができることはご存じでしょうか?会員マイページから「災害ボランティア登録」をすることができます。香川県助産師会の災害ボランティア登録も受付中です。
 日本助産師会のHPから「助産師が伝える災害時の知恵ぶくろ」のダウンロードが可能です。また、災害支援活動のページでは、被災地支援の報告や災害時支援にあたる上での心構えが記載されています。皆さまご活用ください!

活動報告

＜災害対策委員の活動報告＞

災害対策委員 高田恵子

当会は、香川県と災害時助産師支援活動にかかる協定を結んでいます。独自にボランティア登録も行っており、地域で活動する会員を中心に47名が登録されています。今年度は7月16日に中国四国地区災害対策委員会（オンライン）があり、「全国と中国四国地区の現状について」と「中国四国地区災害支援ネットワークの活用」について話し合いました。現在参加者でグループLINEを作成し、災害に関する研修等の情報共有に使用しています。今後、災害時の他県との連携に活用できればと思っています。9月30日には香川県の大規模地震時医療活動訓練に参加しました。県内の様々な関係機関が参加した訓練で、具体的な支援要請もあり、今回は対象となる地域で活動する助産師38名の安否確認を実施しました。事務所に待機して全体の状況が把握できない中で、会員との連絡や本部からの連絡を待つ時間はとても不安で長く感じました。安否確認時の確認事項や支援者の選出等、今後の課題もみつきり、安否確認訓練に向けて体制を整えていきたいと思います。10月21日には災害対策委員3名が日本助産師会の災害対策委員会オンライン連携集会に参加しました。今年度は茨城県助産師会の「災害時地域連携に向けた取り組み」と埼玉県助産師会の「災害時支援マニュアルの作成と関係機関との連携」についての報告がなされました。グループワークでは「災害に備えた平時からの身近な取り組み」について話し合いました。母子の特徴として知らない場所は利用しないため、実際に救護所で見かけたり支援を必要としたりすることも少ないそうです。災害時にも切れ目のない支援を行うために、日ごろからの取り組みや災害教育が必要だと感じました。子育てサークルなどで助産師が災害への備えを伝える活動をされているところもあり是非参考にしたいと思いました。

～香川県大規模地震時医療活動訓練報告～2023年9月30日

- 9/30（前日11:00発災）8:30 香川県子ども家庭課より会長に連絡（支援要請の可能性あり）
- 9:00 会長（代理）災害対策委員長が事務所に集合
- 9:10 安否確認開始
- 14:00 対象者の安否確認終了
- 14:23 妊婦1名（20週）の対応要請あり
助産師2名で対応することを返答
- 15:20 訓練終了



＜災害に対する訓練について＞

今年度も安否確認訓練を予定しています。訓練では安否確認のみを行っていますが、災害時は対象者には稼働の可否や稼働できる時間帯などの確認もさせていただくことになります。皆さまご協力をお願い致します。

研修報告

「性教育の動向と助産師だからできるプレコンセプションケア」研究会に参加して

綱井朝代

9月3日（日）私にとっては久しぶりの研究会参加のため、いのちの応援舎へ向かうときは緊張感たっぷりでした。が、慣れ親しんだ助産師の方々の顔をみると安心して参加できました。

最初に、竹内美由紀先生からプレコン委員会活動のお話がありました。「プレコンセプションケアとは」から始まり、その必要性や目的、そして助産師だからこそできるプレコンケアや実際の活動内容の報告がありました。プレコンケアは「妊娠前の健康管理」を意味しています。妊娠・出産に適切な時期はあるけれども、自分の体に向きあい、自分のライフプランに適した健康管理を行うことで将来の健全な妊娠出産につながる。そして次世代の子どもたちの健康の可能性を広げるとは…命をつなぐ壮大なプロジェクトの一環に助産師としてではなく、助産師だからこそできるプレコンケアが求められていると思いました。



次に、真鍋由紀子先生からは、先生がプレコン活動で小中高校生へ行っているいのちの出前講座の概要を教えてくださいました。出産のDVDも見せていただき、出前講座を聞きに来た参加者になっていました。性教育の内容も幅広く、対象の年齢によって伝え方も変わってはきますが、「いのちの大切さ」を伝えるのはもちろんのこと、性犯罪に巻き込まれないために自分を守るためにも「プライベートゾーン」を伝えていくことの大切さを改めて実感しました。

最後に、どのようなプレコン活動ができるかのグループワークを行いました。①中高校生②大学生③社会人向けの3つのグループに分かれました。私は中高校生向けのグループでした。中高校生の性への興味関心はいろいろあると思いますが、助産師からの話にくわえ、物（避妊具など）を実際に見て触って、DVDなどを使って視覚的にも訴えていくこと、そして自分が困ったときの支援機関（連絡先）なども伝えておくことが必要と意見が出ました。年代、性別にとらわれず、明るく楽しく、プレコン活動が広がっていくことを願い、助産師の仕事の奥深さを改めて感じた貴重な研究会になりました。ありがとうございました。

第27回いいお産の日（西会場）活動報告

西会場実行委員長 宮武律子

今年もいいお産の日を11/12（日）無事に開催することができました。今年例年よりインフルエンザの流行時期が早く、急な冷え込みもあってか直前や当日でのキャンセルが数件ありましたが、それでも34家族91名の方にご参加いただけました。

抱っこと沐浴のコーナーではゆったりとした開催となりました。その分沐浴では一家族につきスタッフ2人体制で対応することができ、夫婦2人が十分に実践する時間も取れたため、産後のイメージをすることができたとお声をいただきました。抱っこと沐浴のコーナーへ参加の前後では、妊婦体験ジャケットを装着して館内を夫婦で歩いたり、妊婦さんへ急遽マタニティヨガへのお声かけをして当日参加してもらえたりと、臨機応変に参加者の方々と密な関わりができたと思います。よってきまいコーナー（体重測定と相談）は、予約不要としたことでベビーマッサージへ参加前や参加後の多くの親子が気軽に足を運んでくれており、体重を計りながら和やかな雰囲気相談を聞くことができました。フォトブースは前年より盛況で、兄弟で写真を撮っている家族もあり、その可愛さに見ている私たちも幸せな気持ちになりました。

アンケート結果からも多くの参加者に満足していただけたようで、父親になる意識が芽生えるきっかけとなった、赤ちゃんとのふれあい方が学べた、温かい雰囲気楽しかった、といった声をいただき嬉しく思います。

私たちスタッフも出産や新生児訪問で出会った家族と再会ができたり、病院勤務のスタッフはこれから出産にくる家族との顔合わせができたりと、助産師と家族のつながりがより一層強くなったように感じました。今年も無事に開催でき、ご協力いただいたすべての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



第27回いいお産の日（高松会場）活動報告

高松会場実行委員長 片岡孝子

11月3日、天候にも恵まれ、いのちの応援舎にて第27回いいお産の日のイベントを無事開催することができました。今年度のイベントは、ぽっこ助産院さんご協力のもと今回初めて実施した4Dエコー体験、沐浴体験、足型アート、ベビーマッサージ、助産師相談、真鍋助産師とお産を語ろう（座談会）を実施しました。また待ち時間に利用してもらえるようなバルーンアーチのフォトスペースや寝相アートも作成しました。参加人数は昨年度より予約人数を増やし、沐浴体験、助産師相談、座談会は予約制にはせず当日でも参加できるようにしました。当日は31家族83名の方が参加してくださり、とても賑やかなイベントとなりました。高松会場の目玉イベント、座談会「真鍋助産師とお産を語ろう」では、会場が家族連れの参加者でいっぱいになり40分間の座談会は大盛況でした。参加者の方からは「楽しかった。」「もっと話しをしたかった。」という声もきかれ、母親達が自分のお産を振り返ることの大切さを改めて感じたとともに、11月3日（いいおさん）の日にお産について語れる場があることをとてもいいなと思いました。会場では素敵な足型アートを嬉しそうに持って帰る家族、助産師相談でゆっくり相談して心が少し軽くなったお母さん、4D写真を愛おしそうに見つめているご夫婦…などなど他にも紹介したい皆さんの笑顔に私たちは出会うことができました。イベントの帰りに記入していただいたアンケートからは参加者の満足度の高さをうかがい知ることができました。この笑顔に出会うために6月からの約半年間ご協力いただいた実行委員の皆様、当日ご協力いただいた方、助産学生さん、本当にありがとうございました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

